

L. L. Janes 大尉の熊本における足跡

石井容子

1. はじめに一アメリカから日本へ

日本が戦国時代を迎えた頃、コロンブスがアメリカに到達した。それから3世紀近くを経て英国領北アメリカ13の植民地が独立を宣言すると、フロンティア・ラインは西方に急伸し、19世紀半ばにロッキー山脈を越えて1890年頃一応の終了を迎えるまで、領土は購入、併合、獲得され、次第に拡大していった。フロンティアはアメリカ発展の象徴とされ、その精神はアメリカ人の気質の源泉と考えられている。

L. L. ジェーンズ (Leroy Lansing Janes、1837-1909) の父イライシャも、1827年、人口300人に満たない開拓村オハイオ州タスカラワス郡ゴシェンに定住した。恐らく、旧約聖書に登場する豊饒の地ゴシェンにあやかりたいと願い、入植者達がそう名付けたのであろう。イライシャは、農場を所有する地元の名士で、また、奴隷制廃止運動の熱心な活動家だった。1837年3月27日、辺地だったその土地にジェーンズは生まれ、育った。

その頃、アメリカの北部と南部は、開拓が進むにつれて西部に設立された州が奴隷制を認めるか否かで対立を深めていた。イライシャの農場は逃亡奴隷が使う「水面下の駅」となっていて、ジェーンズはそこで自由を求めて旅立つ黒人旅行者と出会い興奮したという。彼は、「父が奴隷廃止運動に参加したおかげで、大義のために生きることがいかに大切か分かった。」と、のちに日本の生徒に話した。¹

ジェーンズは父が望んでいた聖職者にならず、ウェスト・ポイント陸軍士官学校に進学した。ついに南北戦争が勃発し、繰り上げで卒業したジェーンズは北軍士官として南北戦争に従軍した。その後、母校で教員を務めたあと、第2砲兵隊大尉に昇進し、オレゴン州スティーヴンス砦中隊長を経て、1867

年12月9日退役した。1868年1月2日、サンフランシスコ長老教会スカッター牧師の娘ハリエットと2度目の結婚をし、翌年春からメリーランド州セント・デニスで農業に従事していた²が、1871年、ジェーンズは日本の文部省に雇われ、外国人教師として熊本洋学校に赴任した。本論では、熊本におけるジェーンズの足跡を辿りたい。

2. ジェーンズ大尉と肥後の維新

…(日本の)幕府と諸藩は、4、5世紀の間、近代文明排除の旗印を掲げ、国を統治してきたが、討幕派と野戦を繰り返して結局敗れてしまった。しかし、彼らは決して服従したわけではなかった。難問を突きつけられ、それを受諾してからまだ3年も経っていなかった。英国が7世紀かかって成し遂げた改革を、日本は実質3年という短い期間で効果を上げたが、それは再建に向かって、ただ形式的に端緒が開かれたにすぎなかった。…封建制という旧体制が、日本の伝統、教訓、慣習、道徳、思考習慣におお深く根付いていた。

…肥後の別称「火の国 Land of Fire」は、明らかに「自然現象の混乱」を暗示している。この県のまさに中心部は、火口径と外輪山の周囲が世界最大だと言われる活火山の噴火口を支え、広範囲で隆起していた。肥後の海岸線に沿った海は、驚くほどリン光を発生し、それが名前の由来になった肥後の海岸もある。(不知火)薩摩最南端にある開聞(岳)から、九州の北の境界にある豊前の英彦山まで、そして肥前半島を通して迂回するように、活火山や死火山の頂きが連なっている。肥後の阿蘇山はその中心である。概ね、火山の山脈とぴったり繋がっていて、九州の屋台骨を形成しているのであろう。

…侍は、黄色い式服を着て月代を剃り、素足で、着物に帯を締めて、まるで悪党のようにそこに2本の刀を差していた！領主の長である藩主細川侯は將軍の封臣であり、その將軍は君主であるミカド(帝)の代行を務めていた。

…世界の大国は、ルターが耐え難い制度に単独で抗議(宗教改革)した16世紀当時の状態のままであった。近代イタリアはその国自身が持つ嫌悪感と絶えず衝突していた。フランスは、教会組織ラオコオン会衆を国家の生命体から振り払おうとまだ奮闘努力していたし、英国も、国内の学校を宗教という強力な敵から解放する決意を固めていた。しかし、同時に、それは苦痛を伴い別の危険を孕むことも、彼らは理解していた。もし、この目障りで厄介なライバルと闘って普通教育に移行する難しさが分かる人なら、私が熊本で

どのような体験をしたか、少しは想像して頂けるかもしれない。それにしても、太平洋の西も東も、何と荒涼とした時代であったことだろう！³

以上は、L. L. ジェーンズ著 *KUMAMOTO, An Episode in Japan's Break from Feudalism* 『クマモト、日本の封建制からの幕開けに関するエピソード』34章のうち序文及び第1章からの引用だが、世情に通じ、家族と過ごした日本の辺地、九州の地理を正確に表記するなど、彼の知識の広さが窺える部分である。

1840年代初め、横井小楠（1809-69）は、「これまでの節儉は、藩の財政や藩主の赤字を一般士民に儉約させて、その剰余を藩が吸い上げる『聚斂（過重な租税を取り立てること）の利政』である。そして、文義や字句の解釈だけに終始する時習館の学問は無用だ。」と非難し、治国安民の道を追究する「実学」を提唱した。やがて武士の世が終わることを予知した小楠は、生産部門の重要な担い手である農民の生活を向上させることが先決であると考えた。⁴ 安政5年（1858年）には福井藩主松平春嶽に招聘され、明治元年（1868年）維新政権に参画するが、翌2年1月5日、キリスト教徒と疑われて刺客に斬殺された。⁵（京都市寺町通丸太町下ル東側）その場所は、6年後、一部の熊本洋學校生徒がキリスト教を信仰したために熊本を追われ転校した同志社英学校発祥の地（京都市寺町通松蔭町18番地、初代社長・新島襄）から360mほどしか離れていない。

明治3年（1870年）5月27日、かねて横井小楠が囑望していた細川護久侯（1839-93）が熊本藩知事として帰熊した。護久侯は、同6月1日、弟の護美公（1842-1906）を大参事に据え、実学党の要人を登用して新政権を発足させた。教育改革として、7月8日、熊本藩は藩校「時習館」と漢方医学校「再春館」、洋學所などを廃止し、10月6日「古城ノ北側」にオランダ軍医セ・ヘ・ファン・マンズフェルトを招聘して蘭方医学の「古城醫學校」を、そして翌明治4年その隣「古城堀端」に「熊本洋學校」を開設した。⁶両校が設立されたのは、現・熊本県立第一高等学校敷地内である。明治3年に肥後で行われたこの一連の改革を、徳富蘆花は「肥後の維新」と記した。熊本洋學校第2級に入学し、退学後第5級に再入学した兄、徳富蘇峰は、

そもそも洋學校と云ふのは、細川侯が維新の當初に創立したるものにて、それには横井（小楠）先生の姪、米國から留學の半途、病の爲に歸朝したる横井大平（1850-1871）氏杯の盡力にて創立したるものにて、多分

最初は兵學校にても起す積りであつたか、フルベッキ氏（横井大平の長崎留学時代の恩師）の世話にて、米國ウェスト・ポイント兵學校卒業生砲兵大尉ゼンスを招聘した。ゼンスの妻はニューヨークの牧師スコッダーの女にて可成の家柄であり、なかなか氣強い女にて、ゼンスも夫人にはあまり頭が上がらなかった。

と書き残している。⁷

慶応3年（1867年）12月9日の「王政復古ノ大号令」から天皇が自らの神性を否定する詔書を出した1946年1月1日まで、800余りの勅語が存在するが、群を抜いてその数が多かったのは明治最初の10年間で271件だった。とりわけ明治10年（1877年）には59の詔書が出されている。⁸これらの詔書により、暦法改正（明治5年11月9日）、地租改正（明治6年7月28日）、政治体制整備（明治元年3月14日の「五箇条ノ御誓文」以降、随時發布）と、日本は地方分権から中央集権の道を辿った。そのうち、ジェーンズ一家が日本を目指して太平洋を航海していた間に発せられた「廢藩置県ノ詔」（明治4年7月14日）は、天皇直轄以外の軍事学校設立を禁じたため、当初、横井大平らが構想した兵学教育のための学校は、急遽、普通学校へと転換された。⁹

ジェーンズは、熊本でこれまで存在せずまた存在できなかつた仕事に尽力する契約を求められた。（Fig.2：雇入外国人に関する明細）新任の外国人教師は、母国と異なつた判断基準の中で、母国から相談も同情も支援も受けることができず、ましてや明治維新の不安定な内政の中で、安全を確保する手段さえ望めなかつた。¹⁰危険に晒されたのは、攘夷の風を受けたジェーンズだけではない。今までと全く異なつた秩序を敷いて県を発展させようとした実学党連も同じだった。彼らは、極めて困難な仕事を進めていく中で、まず西洋科学や文化の将来性に共鳴すると、短時間で何とかして教育水準を引き上げ、他国との格差を縮めなければならないと決意を固めた。だからこそ、ジェーンズは自分も熊本に貢献したいと考えたと回顧している。¹³

明治初年、全国に17万余りもあつた町村が、わずか10年の間に1万2千程に統合されて、地方には国政委任事務が山のように押し寄せた。¹¹ジェーンズは、「天皇支配の原則が定着して、熊本洋學校の特色や学習活動は上の機関からの制限を受け、啓発への熱意と切望は意気消沈し、先の状態も読めなくなつていた。しかし、中央政府が嫉妬深く干渉してくる中で、この古

参の藩は、独立と競争の精神で、注意深くそして辛抱強く、以前にもましてきめ細かに意思決定することを心掛けていた。」と述べている。¹²

ジェーンズは、「日本人の第一原理は『追放の原理』であり、彼らは日本民族以外の全ての人々を劣っている人、野蛮な人或いは悪魔と見なした。」¹⁴と著述しながらも、彼を支えた律義で気骨ある熊本人のほか、以下の例をあげて「日出ずる国の賢者たち」を高く評価した。

二人の賢人ニュートンとライプニッツに先んじて導関数を発見し、両者を併せた関数計算をすでに考えていた日本人がいたという記事を見たことがある。これは西洋の微積分の計算法である！この神話が起きたのは、コッホの生徒の一人で、彼のような医学者を日本が輩出したといわれた時期だった。装甲艦を指揮したネルソンのような者が一人か二人、本格的なナポレオンのような者、日本におけるクリュストモスに代わるキリスト教の大司教、ウォルターのような褐色の肌をした二人の小さな編集者もいた。¹⁵

ここで言及されている賢者たちとは、恐らく、関孝和、北里柴三郎、勝海舟と坂本竜馬、西郷隆盛、熊本バンドの宗教家たち、そして、熊本洋学校元生徒の徳富蘇峰と小崎弘道（「六合リクゴウ雑誌」などを発刊）であろう。

当時、外から揺さぶられながら地域で文明を開化させていったのは、何も熊本に限ったことではない。しかし、学制頒布でそれまで旧藩や県が自由に設立した学校が廃止を命じられた後も、現地で外国人教師の年給4,800円を援助するスポンサーが現れ、教師の雇用を延長した府県が他にあっただろうか。そのうえで、以下で述べる数々のエピソードが生まれたのであれば、熊本は、当時日本において特別な地域であったということは否定できまい。

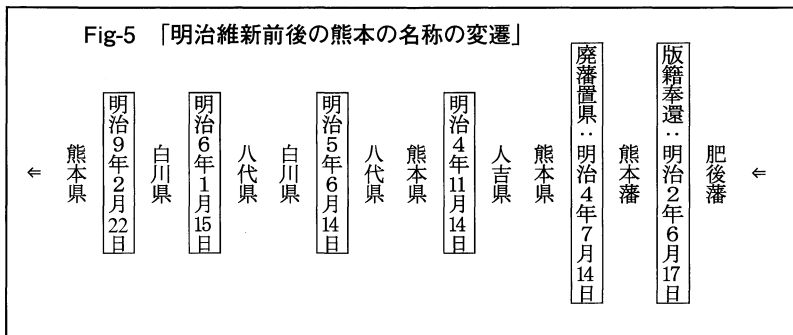
1868年、古代からの習慣に従って陸仁陛下（明治天皇、1852-1912）が採用された新年号は、熊本の合言葉「文明開化」を忠実に訳した「明治」だった。「太政類典第二編」（自明治4年8月至明

熊本洋学校役員の給料	
年給	4800円 教師ゼンス
(1ヶ月)	400円)
全	240円 幹事・野々口為志
全	120円 事務・野原徳鄰
合計	5220円
	280円 使庁給料
統計	5500円
明治7年9月	
右之通相定候事	

(Fig-3) 県政文書
熊本県立図書館所蔵

治10年12月)によると、文部省は明治4年8月28日から7年10月7日までジェーンズを雇い入れている。明治5年8月3日の学制公布で、明治7年夏の第3教育年度終了とともに、文部省は外国人教師の俸給を、県は学校経費を差し止めることになり、政府はジェーンズに東京・開成学校の教師の口を勧めた。洋学校を運営するには人件費だけで5,500円が必要だった。この出来事で悲嘆に暮れた生徒や関係者は、護美公の隠居した兄即ち肥後を統治した元大名細川護久侯に上訴した。

現在、「明治7年10月で雇い入れが満了したジェーンズの雇用を本年8年10月まで継続させるために5,500円を差し出した従四位細川護久を褒賞してほしい」と県が文部省に願い出た文書(明治8年9月19日付)とそれを受諾する内務卿大久保利通の返書(明治8年10月24日付)が「県政文書」として保管されている。(Fig-4: 県政文書) スポンサーとは細川護久侯であった。



3. ジェーンズ大尉の熊本洋学校における教育

徳川時代から明治10年前後までの熊本の寺子屋の数は、長野縣、山口縣、岡山縣、愛知縣に続き、全国で5番目だったことから、熊本は教育を普及させる気風のある地域だったと言えよう。ジェーンズは『英学小学校』の教師として招聘されたが、熊本県教育委員会が出した『熊本縣教育史』によると、熊本洋学校は、明治初年から明治5年学制頒布までの第一期に「教養ノ主ナル教科」として「英語」を教授した中等教育に区分され、学制から同12年教育令發布までの第二期には古城醫學校とともに高等教育に区分されている。¹⁶また、白川縣が英語学教師を雇い入れる期間が3年だったにも拘らず、

修了年を4年に定めたのは、ジェーンズが熊本洋學校にカレッジアメリカにおいて一般教養教育を行う4年制大学一の機能を持たせようとしたためである。¹⁷

余田司馬人（熊本洋學校第1級（1年目入学））は、「洋學校の起こりは明治3年、（閏10月20日洋學所を再興し、11月14日洋學所規則を制定して入学志願者を募る。）教師の来熊は4年の8月で、授業は9月1日に開始（校舎は10月に落成して開校式を行ったが、この時、洋學所の名称を熊本洋學校と改めた。¹⁸）、明治9年7月に教師が解雇され閉校になったと思う。その時代、全国に洋學校とか英學校があったと思うが、皆語学を教えたもので、熊本洋學校は、普通科だったため、卒業生が東京に出て大学に入る時などは大変便利だったと聞いている。」と回顧している。¹⁹また、徳富蘇峰は「洋學校は全て官費で、学校内では殆どアメリカ風の生活を行っていた。…ゼンスは四年以上も日本にゐたが、絶対に日本語を用ひず、彼は生徒に教ふるにも英語のみでやつてゐたから、彼の説教や談話なども、固より予には解らうはずもなかった。併し上級の横井時雄－當時伊勢－や金森通倫が、ゼンスの意を受けて話す事はよく判った。」と書き残した。²⁰

ジェーンズは、一匹狼の外国人企画者として、そして指導者として、学校の組織運営や教育計画の取り決め全てを行わなければならなかった。²¹「ジェーンズは、道徳意識を説いて真のジェントルマンとしての人格教育を行ったラグビー校校長トマス・アーノルド（1795-1842）を手本として挙げた。」と、森田久万人（第1級生徒）は回想している。²²そして、「この学舎に入りては智を深め、出でては国と民とに身を捧げよ」という有名な言葉を残したハーバード大学学長チャールズ・ウィリアム・エリオット（1834-1926）が提唱する自由教育に従って、生徒に英語で実用的及び理論的知識を確実に習得させた。²³不破唯次郎（第2級生徒）は、「ジェーンズ大尉は、『修身の授業を行うなどナンセンス、学校は文物を学ぶところで、自分が生徒達に健全な道徳の見本を示せば済むことである。』という主張を通して、修身の授業は取りやめとなった。』²⁴と回顧している。このようにして、熊本洋學校の「人格教育」の基礎が固められた。

また、ジェーンズは、当初から「自助の原則」つまり「完全に習得したものは全て人に教えることができる。」という堅実な原則を実践した。²⁵これは、彼が受けた「学科を習得したと言えるのは、何を聞かれても、口頭で公開の

場で説明できる能力が身につく時だ。」とするウェスト・ポイントの教育²⁶にはかならない。また、英語の基本要素を習得する際に競争させるという新たな試みも、陸軍士官学校の教育を受けた者ならではの発想であろう。そして、優秀な上級生を下級クラスの教師に使うことで、ジェーンズは一人で教えた熊本洋学校の教員不足を補い、同時にその生徒の指導力を伸ばすことにも繋がった。²⁷こうして、彼は「エリート教育」の礎も築き、優秀な人材を育てたのである。

ジェーンズに暗い影を投げかけたのは、言葉の問題だった。「外国語を母語に完全に置き換えることは、実は、民族特有の皮膚の色を変えたり、髪の毛の質感を変えたりすること以上に難しい。」²⁸と、繰り返し教え子達に言ったという。彼は、日本の学校を見て、英語の表現を漢字の表意文字に翻訳することは、言語処理を誤るばかりでなく、発達段階を後退させることであり、従って、新しい環境がもたらした様々な利点を喪失しないために、また借用語（外来語）の利点を享受するためにも、足場を表音文字に移すべきだと考えた。だからこそ、ジェーンズは、言語を学問分野として体系だてて研究するという基本に立ち戻り、通訳を使わず、外国人教師が赴任地の言葉を習得するのでもなく、「生徒が外国人教師の母語を習得する」方針を貫くことに決めたのである。²⁹そして、その第1段階で用いたテキストが、ウェブスターの *The Elementary Spelling Book* だった。

ところが、生徒に発音の基礎を定着させる指導に入った途端、ジェーンズは、日本人の発声器官ではまったく処理できず、発音できない音がいくつかあることに気づいた。

発声器官がひとたびその位置を覚え、そこに適切な力で息を吹きかけてやれば、慣れないために言い辛かった外国語の音も、新たに母語の音に遭遇する時と同じように、簡単に発音することができることは、直ぐに証明された。私は図をかいて、これを分かりやすく説明した。この方法が非常に効果的だったので、これらの図は、野々口（為志）さんがあとで黒板から書き写し、今後の授業のために残しておいてくれた。最も難しい *th* の音の場合は、舌尖を歯と歯の間で止めるだけ、日本人にはほとんど不可能な *v* の音の場合は、下唇を上歯に止め、（口の中の）遊びの空間から息を押し出すだけでいいのだと説明した。その後、生徒達は、母語の音を習得してきたのと同じように、こつこつと身を入れて英

語を習得していった。日常言い慣れている母語と同じくらいに、脳が、完全に、舌、上下の唇などの発音調節器官に指令する神経を制御できるようになるまで、何度も何度も練習を繰り返せば、生徒達は、新しく覚えた英語の音も母語の音のように遜色なく発音することができた。³⁰ という具合に、生徒達は上達していったのである。熊本洋学校の生徒達は、英語の基礎を終えると、英語を用いて、文法、構文解析、読解から、暗記、英作文、演説を学習した。³¹

上達の度合いで情け容赦なく班替えが行われ、多くの退学者も出たが、入学後3年が経過した生徒は、自然の法則、宇宙の数学的秩序、物質のあらゆる形態の化学的構造、力学の特質とその応用、知性の原理と効力と作用、健康と疾病、文学良書を学習した。さらに、世界における自然地理学及び政治地理学も学んだが、それらは両方とも、数年前まで、彼らにとっても彼らの民族にとっても役に立つとは考えられていなかった領域の学問だった。生徒は算数の授業も受けていた。算数は、まず、アメリカ式に「知性」を修養する教科として導入され、「上級」の単元まで進められた。引き続き、代数、幾何、三角法、測定法を学習し、さらには、初等天文学の概略、化学の初歩と実験、物理の原理、自然哲学、生理学、衛生学にまで及んだという記述が残されている。³²

教育課程が窺える一つの資料として、坂上竹松の「洋学校修学証明書」がある。修学証明書は半期ごとに手渡された。熊本洋学校は5年で閉校したので、創立3年目に入学した坂上竹松は、計6枚の証明書を受け取っていた。また、「白川新聞」第37号付録には、洋学校生徒の成績が詳報されている。

生徒達は、毎日行われた対話式授業を通して、様々な科学分野を例証、応用し、関連させながら、英語で知識を習得するとともに、英文学の鑑賞力を深めて、実際に人々の生活や福利厚生に影響を与えたと、ジェーンズは記している。³³

【熊本洋学校図書について】

洋学校生徒が教科書として使用し、また閲読したと思われる図書が熊本県立大学附属図書館とジェーンズ邸（下記では*をつけた書籍）に所蔵されている。

Author	Book
a) English	
Ireland. Board of National Education	<i>Second Book of Lessons.</i>
Ireland. Board of National Education	<i>Third Book of Lessons.</i>
Ireland. Board of National Education	<i>Fourth Book of Lessons.</i>
McGuffey, William Holmes, 1800 -1873.	<i>McGuffey's New First Eclectic Reader.</i> <i>McGuffey's New Second Eclectic Reader.</i> <i>McGuffey's New Third Eclectic Reader.</i> <i>McGuffey's New Fifth Eclectic Reader.</i> <i>McGuffey's New Juvenile Speaker.</i>
Sargent, Epes, 1813-1880.	<i>Standard First Reader.</i>
Watson, James Madison, 1827-1900.	<i>Independent Elementary Speller.</i>
Smith, William Wye, 1827-1917.	<i>The Juvenile Definer.</i>
Lennie, William, 1779-1852.	<i>The Principles of English Grammar.</i>
Noah Webster, 1758-1843.	<i>*The Elementary Spelling Book.</i>
b) Social Studies	
Guy, Joseph, 1784 -1867.	<i>Guy's School Geography.</i>
Guyot, Arnold, 1807-1884.	<i>Introduction to the study of Geography.</i>
Mitchell, Samuel Augustus, 1792-1868.	<i>A system of Modern Geography.</i>
Knight, Charles, 1791-1873.	<i>A History of England. Vols. 1, 3 to 8.</i> <i>Charles Knight's Popular History of England.</i>
Anderson, John Jacob, 1821-1906.	<i>A Manual of General History.</i> <i>A School History of England.</i>
Smith, Philip, 1817-1885.	<i>A History of the World. Vols. 2 & 3.</i>
Müller, Johanness Von, 1752-1809.	<i>The History of the World.</i>
Kent, James, 1763 -1847.	<i>Commentaries on American Law Vols. 1 & 3.</i>
Tate, Thomas, 1807-1888.	<i>First Lessons in Philosophy.</i> <i>The Little Philosopher.</i>
c) Mathematics	
Davies, Charles, 1798 -1876.	<i>New Elementary Algebra.</i> <i>University Algebra.</i>
Ray, Joseph, 1807-1855.	<i>Intellectual Arithmetic.</i>

Practical Arithmetic.

d) Science

Porter, John Addison, 1822-1866.

Principles of Chemistry.

Steele, Joel Dorman, 1836 -1886.

*Fourteen Weeks in Chemistry.**Fourteen Weeks in Descriptive Astronomy.*

Byrne, Oliver, 1810-1880.

*The Practical Metal-Worker's Assistant.*Hutchison, Joseph Chrisman, 1822-1887. *A Treatise on Physiology and Hygiene.*

Flint, Austin, 1836-1915.

The Physiology of Man.

(Treatises)

Natural Philosophy, 1st to 4th Treatises.

(Treatises)

Natural Philosophy, 5th to 8th Treatises.

e) Others

W. and R. Chambers

Chambers's Encyclopaedia. Vols. 1 to 10.

Nodier, Charles, 1780-1844.

Vocabulaire de la Langue Francaise.

Ward, James Harmon, 1806-1861.

A Manual of Naval Tactics.

Straith, Hector, 1794-1871.

Fortification and Artillery.

Goens, H. Van. (Rotterdam)

Hanleiding tot de Kennis der Zee-Artillerie.

New York City

“*Twenty-Seventh Annual Report of the Board of Education.*”

先行研究で示されているように、書籍には「白川縣圖書印」、「熊本洋學文庫」、「熊本縣尋常師範學校」（明治7年（1874年）設立の仮師範学校）、「廣取學校印章」（明治11年（1878年）10月21日開校式、明治15年（1882年）頃、廃校）などの朱印がある。また、「申改」、「子改」の小朱印もあり、熊本縣廳が白川近くに移転したことにより「白川縣」と名前を変えた明治5年（申6月14日）から明治9年（子2月22日）にかけて、洋學校経営期間に現品検査が行われていたことを物語っている。³⁴ なお、歴史の書籍 Anderson, John Jacob, *A Manual of General History*. New York ; Clark & Maynard, Publishers, 1873. に家屋図面が書き込まれている。文字はジェーンズの筆跡に酷似しているが誰が書いたものか、図面は来熊直後に入居した仮家と似ているがどこの住宅なのか調査し、後日結論を出したい。

ここで、子供達に最初に手渡された *The Elementary Spelling Book* (ジェーンズ邸蔵) とマクガフィのリーダー (熊本県立大学附属図書館蔵) について考

察してみたい。

まず、*The Elementary Spelling Book* では、No. 1からNo. 149のステップごとに、同じ発音の仕方をする音節を50前後ずつ据え、次に、口慣らしのための意味のない音節の羅列をいくつか挙げている。No. 17からは、それに変わって1音節の単語を、また、No. 44からは、同じ音声表記を含む単語や、音節の数とアクセントの位置が同じ2音節以上の単語を据えている。さらに、No. 9からは、単語の羅列に変わって例文を挙げている。No. 147では、挿絵をつけて、3種類の動物—THE DOG、THE STAG、THE SQUIRRELを英文で説明した後に、寓話を7遍収めている。テキストは、発音が変則的な単語を集めたNo. 149で終了している。

要するに、単語を一度発音して終わるのでなく、その後、例文などに進むことで、再度同じ読み方をする単語に触れ、発音の練習が幾度もできる構造—即ち、たくさんの経験が積める構造になっている。同時に、例文が、学習者の情報源として、西洋の生活や文化を知る百科事典的な役目を果たし、本来退屈な発音練習に興味、関心、意欲を持たせることが望める—つまり、単なる綴り方・発音帳で終わっていないのである。

学習者は、発音の経験を積むことで、発音の類似性を認知し、また、他と比較することで相違点を理解する。特定の形態で結びついた単語の読み方が脳内に記憶される。この一連の過程を慣例化させることで、項目をあたかもネットワークのように増やすことができるのである。

ただ、英語の発音を初心者の生徒にたたき込むためにこのテキストが使われたのだとすれば、全員がテキストに登場する英語の意味を理解できていたとは考え辛い。

ウェブスターの青表紙のスペリング・ブックを終えた後、ジェーンズは、マクガフィのリーダー（熊本県立大学附属図書館蔵）に進み、上海で出版されたばかりのヘボン（James Curtis Hepburn, 1815 - 1911）の『和英語林集成』を1冊与えて、本格的な読解に入った。

…読本の内容が、十代半ばから後半の若者に子供じみていることなど問題ではなかった。重要なのは、その内容を読んで理解できるようになることであった。どういう訳か読めると全てに興味が湧き、傾けた労力の分だけ上達することも分かった。

明確な道徳的教訓が添えられているマクガフィの単純な逸話は、少年達の

ほとんどにとって、西洋思想との最初の出会いで、彼らは内容を詳細に検討し、評価したという。³⁵

ジェーンズ邸で *The Elementary Spelling Book* を手にした時、数ページに渡って上部角に三角の折り目がついているところがあった。**ANALYSIS OF SOUNDS IN THE ENGLISH LANGUAGE** のページである。発声器官をどのように使って母音や子音を発音するのかを記述し、また、発音のルールを分かり易く解説している部分だ。熊本洋学校の生徒達は、綴り字とその発音の間のルールを熟知していたからこそ、第2段階としてマクガフィのリーダー(読本)に入った時、英文を易々と音読することができたのであろう。

ジェーンズが、*The Elementary Spelling Book* を教科書にして英語を教え始めたことは、英語教育法の理論からも正しい選択だったと言えよう。もしかしたら、現在、日本の初等英語教育において、まだまだ不足しているのは、このフォニックスの部分かもしれない。

【男女共学について】

熊本洋学校は、日本で初めて男女共学を行った学校だと言われている。

学校が4年目を迎えた時、ジェーンズは、海老名弾正(第2級生徒)の受け持つ新生入生の特進クラスにオハツサンとオミヤサンを入れた。これに反感を抱いた海老名ら生徒達を、ジェーンズは以下のように深く論じた。

知性は、本質的にみな同じです。君達の周りにいる女性の地位が男性よりも「劣っている」のは、卑劣で我侷な男性が強制的に制約を課しているからなのかもしれませんが、それは誰にも分かりません。今の君達はその怒りを、なぜ、公娼制度に向けないのですか？ 公娼制度こそ、女性は劣っているという男性のずるく憎むべき考え方が、見事にそして自然に集約された象徴なのです。女性が劣っているという証明は何一つありません。女性の方も、君達男性に逆らって反乱を起こすことなどしないでしょ。だからこそ、君達男性は、気にもかけずに女性を抑圧し、女性の心を支配できると錯覚するのです。しかし、君達男性は、夢にも思わない方法で、いつか痛い目に遭うことでしょう。女性も、このまま、ちぐはぐで不誠実な愚行を続けると、娼婦にまで身を落とすことになる

でしょう。女性に能力を使わず、教育を与えなければ、女性はいつまでも君達から自立できず、君達の子どもの世話も十分にできず、男性が家に帰っても寛げないでしょう。田舎では、根拠のない偏見によって、特に人の手によってつくられた宗教上の伝統や教えによって、男女や双子が引き離されて育てられています。そのような地域では、一人を女子修道院に閉じ込め、他方は男女共学制を試みようとしないうちに大学に進学させて、偏見のために、いまだ男女別学が支持されています。肥後の男性も、このような偏見を持ち続ける限り、この地に女学校をつくっても何の意味もありません。このような偏見は、啓発の原則に逆行するものです。アメリカでは、かつて奴隷制を容認した州で奴隷に読み書きを教えることは犯罪でした。奴隷制度と啓発が両立することはありません。如何なる社会体制においても、無学の先には、精神的或いは肉体的な奴隷制が存在するだけです。日本においては、君達が擁護する悪しき偏見が、知的道徳的意味合いを持つ奴隷制を育ててきたのです。この偏見を捨て、万人を教育し啓発することを君達の信条としなさい。そうすれば、あらゆる外国の事物に関する偏見や、特に君達自身の教育に対する偏見は、そのうちきれいに消えてなくなることでしょう。君達の学校の本当の敵のことを知って下さい。³⁶

この二人の少女のうち、年下のオハツサンは、徳富蘇峰、蘆花の姉で、群馬県議会議員、のちに自由党所属衆議院議員となる湯浅治郎と結婚した。彼女は最高の伴侶と京都御所近くに移り住み、妻、母の模範として、そして夫とともに娼妓運動など社会文化活動の花形として、幸せに暮らした。³⁷

海老名弾正は、二人の女生徒の最初の教師だったが、年上の方のオミヤサンに求婚し、彼女の兄、横井時雄（横井小楠の嫡男で熊本洋学校第1級生徒）に仲人を頼んでめでたく結婚した。「彼が、『この伴侶と添い遂げなければ、自分の将来は台無しになって不幸な人生を送ったことだろう。』と公言したのも無理はない。オミヤサンは、最も気高く、最も才能豊かで、完璧に近い女性の魅力と人格を備えた女性だったからである。」と彼女の素顔を伝えることができるのは、洋学校教師ジェーンズの特権かもしれない。「オミヤサンは、育ち盛りの子供達に追われた忙しい時期や、夫が牧師として務めていた期間を除いて、貴重で有意義な年月を教育事業に捧げ、日本各地で少女達を教え励ました。この事業で、彼女は、各種団体の設立、公娼反対運動、

知的向上の推進に手腕を振るい、大きな影響を与えたが、政府と国民は一貫して男女共学の恩恵を否定し続けたので、彼女の事業は全て「女学校」で行われなければならなかった。しかし、日本もアメリカやヨーロッパのようにまもなくこの偏見を克服することができるだろう。」とジェーンズは述べている。³⁸

4. ジェーンズ大尉と肥後の近代化

天津街道などでも犠牲者が出ていたという風評はあるものの、熊本は、予め穀物を貯蔵するなど、緊急時の被害を未然に防ぐ政治を行っていて、「天明の飢饉」の時さえ、飢餓者を出さなかったのは内紀伊、水戸、米沢のほか熊本の4藩のみだと言われた行政区だった。³⁹

「肥後は美しい街であちこちにきれいな水田や野菜畑が広がっているが、野菜は風味も質も損なわれていた。」とジェーンズは記している。地元の人が使っていた道具では芝地を開墾し難く、単に耕作しやすいという理由で砂地に畑をつくって、悪臭のする肥料を頻繁に撒いて作物の質を上げようとしていたのである。このような問題が生じた原因を、ジェーンズは「人々は米づくりに疲れ果て、野菜や果物の改善まで手が回らなかった」と分析した。そこで彼は、「芝地に日本人には馴染みのないトウモロコシという穀粒を植え付けて、その上に肥沃な土壌を徐々にかけるという方法を取れば、砂地の野菜畑と同じ位に簡単に耕作でき、野菜の植え付けができる。」と助言したというエピソードがある。

ジェーンズが熊本に滞在した1870年代、熊本が必要とした農業技術は進んだものではなく、ジェーンズの少年時代に実際に故郷オハイオで行われていた実践的な技術だった。横井小楠の門下生の多くは肥後の豪農であり、彼らは、ジェーンズが洋学校で熱心に西洋科学技術を教授するだけでなく、農業アドバイザーとしての知識を持ち合わせていることに気づき、とても喜んだと言う。⁴⁰熊本滞在中、ジェーンズが教師の仕事と並行して行った農業アドバイザーとしての役割は、熊本の殖産興業推進の意味においても、人々の生活を向上させる意味においても、重要な側面のひとつだと考える。

「明治7年府県物産表」によると、「白川県の生産物総額のうち、農産物価額は72.6%、有職人口のうち農業は81.8%を占めて」⁴¹いて、熊本も農業本位の経済社会だった。一方、ジェーンズは、「太平の世では、軍人は不要で、

生産の業に就いて社会に貢献すべきだ。」⁴²と考えて軍職を退いた後、熊本にやってくるまでの2年間、メリーランド州で農業を営んでいた。「農業こそ近代産業国家の基礎となる」という考えを持っていたジェーンズと、実学党豪農派の関心が一致したのである。

東京に住む外国人の友人が、ジェーンズに「家族が食用とする野菜に特別な対策を取る」ようにとアドバイスしたが、彼はこれを実行することは「地域社会の健康状態と福祉の状況を改善する機会」にも繋がると考えた。

自宅で消費する10倍量の種をニューヨークに注文し、サンフランシスコからアメリカ製の園芸用具一式も取り寄せた。護美公は、ジェーンズには毎日十分な量の野菜を与えているのに理解できないと反対したが、ジェーンズは護美公の意見を受け入れず、ついに菜園を確保し野菜づくりを始めた。採れた野菜は調理され、夕食会で披露された。⁴³なお、「県政文書」によると、明治8年白川縣廳の醫學校あとへの移庁に伴い、召使や下男の住所にもなっている厩、ジェーンズ家の物干場、菜園を移動しなければならなくなったが、野々口為志が「外国人と日本人の情実異なる。井水に配慮して、以下の実情を聞いてほしい。：学校外園石垣下犬走りの土地は菜園にはよいが厩には差し障りがあり物干しにも不都合だ。それで続繁氏の一反程の私有地を替地として拝借したい。」と伺書を県に送っていた。県は許可し、官費をその費用に充てるという返書が即日日出されている。

地元で採れた小麦の保管と製粉に手間をかけるだけで「全粒小麦粉」のパンをつくることもできた。⁴⁴また、不足していたとても高価な赤や黄の染料を新たに探るため、アカネの栽培を試みた。ジェーンズは、フランスの大手種苗メーカーにアカネの種を注文した。そして、アカネに関するあらゆる情報を集めて、熊本でアカネが育つかどうか念入りに調べ、アカネの根や種子の特徴、生産過程、染色方法とその応用、媒染剤に至るまでの情報を盛り込んだ小冊子をつくり、各農家に種と一緒に配ることにした。ジェーンズは「小冊子の情報は、熊本洋学校の特進クラスの生徒達が、英文の聞き取りの練習として翻訳したものだ。」と述べている。熊本県立大学附属図書館には熊本洋学校で使われた書籍が保管されているが、その中に、フランス語の辞書がある。例えば、ジェーンズが、特進クラスの授業で、フランス語の辞書を片手に、フランス語で書かれたアカネに関する文書を英語で言い直し、それを生徒が英語で書き取って日本語に翻訳する—このような一連の作業やア

カネの種を注文する作業で、フランス語の辞書が使われたと推察する。しかし、資料をつくる段階で多くの時間が費やされたうえ、アカネの根を成熟させるのもまたそれを乾燥するのにも時間がかかり、別の新しい計画が進められる中でこの事業は半ば忘れ去られた。⁴⁵

ジェーンズは、オレンジが日本で流行しているいくつかの病気の予防に役立つと考え、河内地区近郊に群生するオレンジの品種改良や植え付け、普及に関する論文をまとめた。⁴⁶「城南町史」(昭和40年)によると、明治3年に仲間と「肥後の維新」に参画し明治13年から17年まで県議会副議長を務めた岩男俊貞は、明治13年に甲州ブドウの苗木の販売を始めた。徳富健次郎(徳富蘆花)述『竹崎順子』には、「ゼエンス夫婦の物質的恩恵には、實學社中何れも多少浴せぬ者なく、社中の洋行歸りの岩男俊貞などは金縁眼鏡をかけて、大江の徳富の宅近くに向實りもせぬ葡萄園を開いて盛にカナブンブンを養つて居たりしましたが、就中慾深は竹崎茶堂でした。茶堂はゼエンスから獲能ふ限りを取りました。而してそれをどしどし取捨し、實行して、生活を豊富にして行きました。肥後に於ける所謂文化生活の率先は、何と云ふても竹崎茶堂であります。」という一節がある。

明治6年5月30日に安岡良亮が県令に就任すると、実学党連は県政から一掃された。「熊本県関係農民騒擾録(1)」(昭和31年)によると、彼らは竹崎茶堂らが結成した「耕耘社」⁴⁷に結集して、冷硬処理した鉄製の犁「プラウ・ハロー・モアー」2本と、2頭立て馬車用引き具一式、このほか、重量の軽いマタック(つるはしに似た鋤)3、4本と、ホー(草取り、土寄せ、土掘りなどに使う鋤形の農具)2、3本を取り寄せ、ジェーンズに熊本東郊小峰原で洋式農法を実演させた。⁴⁸ジェーンズは、深く耕せる犁や鋤など、優れた道具を使えば、土地を開墾でき作物の生産を伸ばせると確信していた。水を抜き米の収穫が終わってから冬の作物を植えつける11月と、田植えの準備をする春の時期には、犁は谷間を通って街と郊外の田畑を忙しく往来し続け、田畑の表土をゆっくりかき混ぜ掘り起こした。やがてうわさは広まり、伝統を重んじる農夫も大いに賞賛して、自分の田畑で犁の試行をしてほしいと申し出た。そして、巨大な鞍を装着して1本ずつ犁を運んでいる2頭の牛とそれを操る人夫達が、熊本洋学校のそばを通り過ぎ眼下の大通りを行き来する様子を、生徒達は教室の窓から見守った。その光景は、町の人々の好奇心をしっかりと掻き立てただけでなく、丁髷を結った不平分子の逆鱗に触れる

ことにもなったのである。⁴⁹これまで侍の特区だった場所に洋学校をつくって外国人を招聘したため、彼らの怒りも頂点に達していたのかもしれない。

ジェーンズは *An Introduction to Agricultural Production* を執筆した。残念なことに、この原文の所在は分かっていない。しかし、同書日本語版『生産初歩』⁵⁰が残っており、冒頭の「自序」と「總論」の間に「米國 カピテーゼンス氏 著 白川縣洋學生徒 山崎 為徳 松村 元兒 市原 武正 集譯」と記されている。(明治六年 癸酉季夏 洋學校蔵版)

明治初年の農書の大部分が欧米農書の翻訳だった中で、『生産初歩』は、県当局の「どのようにして熊本県内の農業生産を拡大すべきか」という問題に対してジェーンズが独自の見解を説いたものである。彼は「總論」で農業を発展させるための第1歩は「肥後ニ於テ商價ノ産物三種アリ即チ米絹茶ナリ」と述べ、この3つの伝統的な農産物を専門的に研究することによって、熊本は大きな利益が得られ、また、農作物の生産を上げる合理的な計画を立てれば二次的産業の発展にも繋がると考えた。このほか、山崎為徳・単独訳の「生産初歩」もあり『新熊本市史』に収められている。ジェーンズの農業論『生産初歩』は、当時の熊本が進むべき方向にぴったり合っていたように思われる。

ジェーンズは赴任した明治4年のうちに県に養蚕、製糸、織物業を勧奨した。翌明治5年と6年、九品寺村、田迎村など県内10ヵ所に養蚕試験所が設立されたが、熊本が養蚕に力を入れたのはジェーンズの勧奨が直接のきっかけになったのではない。「熊本県蚕業史」(大正5年)と「阿蘇郡史」(大正15年)によると、ジェーンズが来熊する以前から、藩は京都から教師を招いて製糸業の技術を伝習させ、藩内に桑苗を無償で配布して養蚕を奨励していた。⁴⁸しかし、県が養蚕、製糸、茶、織物などを勧奨した「明治9年勸業着手之概目」⁴⁸の内容が『生産初歩』を反映させているように思えること、また、海老名弾正は「熊本で、養蚕について一番先に書いたのは、恐らくゼエンスだったであろう。」⁵¹と証言していることを考えても、ジェーンズは熊本の勸業進展に貢献したと認識する。その他、「スイツル(本邦蕪菜の一種洋学校ノ教師「ヂェーンズ」氏米國ヨリ輸ス處也)ヲ培養シテ食用ニ供シ種子ヲ採り燈油ヲ製セシ經驗録」が明治7年甲戌9月6日出版の「白川新聞」第壹號に掲載されている。

ところで、洋学校の生徒は、多くがまさに選りすぐりの若者達であり、選

ばれた旧家の末裔だったが、皆、長年、貧困というよりは厳しい儉約状態に置かれて、多くの生徒が壊血病の症状に苦しんでいた。ジェーンズは、壊血病を治す唯一の薬が新鮮な食肉だと考え許可を申請した。許可は与えられたが、日本人は骨の髄まで仏教徒で、牛の屠殺に手を貸す者も事態の推移に快く賛同する者もいなかった。それで、あの頃までに身分は廃止されていたある人達の力を借りることになった。彼らは動物を殺さない。専ら動物の処理に従事し、死んだ動物の皮、骨、角、蹄などの部位を無料で引き取っては、大きな倉庫の屋根までいっばいに保管し、それを使って教養のある人に負けない技術でものづくりをしていた。多くの貧乏な侍は、自らのために或いは社会的身分が高い道楽者の代理として、夜間このムラに忍び込んで頭や金庫番から高利でお金を借りていた。その頃、この人達は、唯一細川家とその分家を除いて肥後で最も裕福で将来を約束された階級としか考えられなかった一とジェーンズは伝えている。⁵²

食肉を強く勧めたのはジェーンズだけでなく、古城醫學校のマンズフェルトも同じだった。当時のお雇い外国人教師は、単に自分の専門技術を伝授するだけでなく、任地の文化を引き上げる努力をしたようである。

学校の運営、外国人を敵視する不満分子の存在など、熊本での生活はストレスがかかったが、月に一度、長崎を経由してジェーンズのもとにアメリカから彼を元気づける便りが届くようになった。それは、個人的な書簡のほか、定期刊行誌「ニューヨーク・セミウィークリー・トリビューン」や「ハーバース・ジャーナル・オブ・シビリゼーション」、ビーチャー（Henry Ward Beecher, 1813-87）全盛期の「クリスチャン・ユニオン」、科学雑誌、サンフランシスコの日刊新聞などだった。

熊本の人達が最も感動したのは言論（出版）の自由だった。様々な利害が絡むニュースがジェーンズのもとに洪水のように押し寄せた。参政権や差別の問題は残ったものの、奴隷制という以前からのウィルスが国家の静脈から完全に除去されたこと、平和的な帝国が、ミズーリ州から太平洋に向かって西方に、そして、ピュージェット湾へ向かって北方に、驚異的なスピードで伸びていったこと、純然たる共和制の種が南部で芽生えたこと、とりわけ、全国民が熱烈に支持する土壤に頼みの綱である教育がますます深くしっかりと根を張っていったという便りは、時には長い間隔があくこともあったが、全て海を越えてジェーンズのもとにやってきた。

ジェーンズに届いた郵便物の中で熊本の人達を最も驚かせたものは挿絵で、「挿絵は活字に添えられていて、わずかなスペースに何千回も同じ線が刻まれ印刷されていた。」と絶賛された。⁵³

余田司馬人（第1級生徒）は「洋書が少なく、これを他に求めても日本に無く、アメリカまで注文しなければならない有様だったため、書籍が間に合わず、綴り方は同じものを二度繰り返した程だった。それなら学校で教科書を印刷するのがいいだろうということで、印刷機械を活字とともにアメリカから購入した。しかし、注文の書籍が届いたので、印刷は行われず、学校の玄関に積み重ねられ、結局使用されなかった。後に熊本新聞社（活版舎）の印刷用となったのである。」⁵⁴と残した。

「耕耘社」はジェーンズの協力を得ながら洋式農法を試みた。長野藩平や嘉悦氏房らは製糸工場を興した。井上・江上両家は山鹿温泉場を改装し、それまで藩の庇護のもとに発展してきた山鹿温泉が庶民の温泉へと生まれ変わった。徳富蘇峰は、母が主となって、熊本に織物業、家庭養蚕、製糸業を起し、さらに婦人教育に携わったと書き残している。⁵⁵この他、実学党の影響を受けた人達が製茶の普及、製糸や農事の改良などに貢献した。途中で失敗した例もあったが、実学党やジェーンズに関係がない者で肥後産業に貢献した人は極めて少ないと言われたほどである。⁵⁶

5. 熊本洋学校の閉校

第3教育年度が終了するずっと以前に、継続して行われた小さな改革が功を奏し、熊本洋学校の生徒の感情、願望、姿勢の質が成熟し始めていた。その後、自主的にキリスト教を信仰するようになった同校有志35名が花岡山で奉教の結盟を行い（Fig-6:「奉教趣意書」）、驚いた当局は明治9年（1876年）9月で熊本洋学校を閉校することにした。⁵⁷後年、徳富蘇峰は、「實學黨の諸々の家庭は、社會に對して重大なる責任を感じた。さなきだに實學黨の先輩横井小楠先生の如きは、耶蘇教を信じたといふ理由の下に暗殺された位で、實學連には、耶蘇教といはれることは最も禁物であった。」⁵⁸と書き残している。

白川縣から熊本県へ改称されたのを機に、「白川新聞」から改題した「熊本新聞」第116号（明治9年10月9日出版）「雜報」には、

洋學校教師米人ヂェーンズ氏ハ去ル明治4年8月鐘藩の招きに応し則本

年本月7日、5ヶ年乃期満を、此節、目出度本国へ帰られる由
 という記事があるが、実はジェーンズが向かった先はアメリカでなく大阪
 だった。その後、熊本は、日本史上上険悪で重要な時代に入って行く。明治
 9年（1876年）3月28日に公布された廃刀令、即ち、官吏制服など制規の服
 装の場合を除いて帯刀を禁止する命令は士族の不満を高め、10月24日に神風
 連の乱が起きた。そして、第125号（同年11月5日出版）の「雑報」には、

兇徒一件乃お調を民事の御裁判もお取止及處、此古城にある洋學校の伝
 習堂ヲ先日よりお取膳にて、假乃裁判所に成さるゝ由、定て此所にて一
 件のお調べ有るのぞろふと申て居り外

つまり、神風連の裁判がこともあろうにあれだけ神風連が敵視していた洋學
 校で行われるだろうと記載されていた。

ジェーンズは、離熊後、大阪英語學校に勤務し、翌年帰米した。明治26年
 （1893年）、3人目の妻と再び来日し、第三高等中學校で教鞭を執る。京都・
 同志社では講演を行うが、キリスト教批判とともれる発言をしたため、追加
 講演が中止された。この時、同志社の幹部となっていた教え子がかばいきれ
 ないほど、同志社のスポンサーであるアメリカンボードと決定的な溝をつ
 くってしまったように思われる。⁹⁹教育制度改革により改称された第三高等
 學校を解雇され、鹿児島高等中學造士館の英語教師となる。明治30年（1897
 年）、京都・第三高等學校に復職するが、明治32年任期切れで離職し帰国、
 その後、晩年の10年間はカリフォルニアで過ごした。彼の論文『クマモト』
 はカリフォルニアで執筆されたものである。

6. おわりに—ジェーンズ大尉が熊本に残したもの

熊本庶民の住まいと格段の差がある明るく清潔で天井の高い広々とした新
 築の洋館ジェーンズ邸は、熊本の文明開化の指標となった。人々は、ジェー
 ンズのもとにやってきては意見を述べ外国人教師に助言を求めた。「ジェー
 ンズは、檻の中の限られた騒がしい狭い空間の中で、壊血病を患って飢えた
 多くの生徒にビーフスープを準備した人というよりも、ずっと広範な領域に
 渡って熊本に西洋の技術を導入し、洗練された形式や満足のいく成果を約束
 した強い意志を持つ人」だと、人々は認識した。農業アドバイザーとしての
 仕事で、ジェーンズは、嚴重に警護された洋學校の塀のむこうに行って、熊
 本の地域の人々と広く交流することができた。ジェーンズの館は地元の人達

の信頼によって支えられ、館の門もドアも閉じられたことは一度もなかったという。⁶⁰

藩政末期から明治4年7月の県政以降、肥後の政治は実学党の主義に傾き、それは実学党官吏が県政の舞台から追放されるまで続いた。⁶¹幕末・維新の流れの中で、横井小楠の思想が、甥・横井大平ら実学連の熊本洋学校設立のための尽力から、ジェーンズ大尉の招聘と熊本洋学校開学へ実を結んだ後、ジェーンズが、熊本洋学校で青少年を育成し地元住民の生活向上を支援した。横井小楠とジェーンズの2人は会ったことも相談したこともないのに、実学主義を貫いているという点で相似している。農業社会におけるアメリカ及び日本の実学思想の成熟と融合—これが、士族の反乱が起きるまで、わずか5年間ではあったが、ここ熊本で外国語による普通教育が実現した重要な要因だったように思う。

特に、ジェーンズの農業改革に対する熱意は、東京農業大学初代学長となった横井時敬（熊本洋学校第1級生徒）が受け継ぎ、日本唯一の農学専門大学に師の構想のいくつかを持ち込んだ。⁶²また、「政治家になるように諭され自らもそう信じていた洋学校の生徒達が実業についたのは、ジェーンズの感化である。」⁶³と海老名正は証言している。薩長土肥に遅れをとった熊本が多額の資金を投入して、県ひいては国のためになる人材を養成するという県の意図に沿わなかったところもあったかもしれないが、生徒達が政治に翻弄されることなく、仁義を守る小楠の儒学思想を純粋に受け継ぐことができたのは、ジェーンズのおかげだったかもしれない。

ジェーンズは、5年余りの間に、数々の労苦と試練に遭遇しながら、熊本に様々な貴重な置き土産をした。異国の不慣れた状況で仕事をする中で、希望を失い混乱したこともあった。しかし、彼は、「世界貢献とは、現地を支配するためのものではなく、文明開化を提唱し、進んだ技術を現地の人達に教え、指導者達が現地を離れても、現地の人達だけで継続、さらに発展させることができる人材を育てることだ。」とする立場に立って、啓発や博愛という大義を求めた。そして、人の健康改善という根本的な問題にまで取り組んだのである。⁶⁴以上の流れは、ジェーンズのDNAがさせた業だと理解すべきか、また当然の時代の流れと取るべきか、—いずれにしてもジェーンズを追跡するにつれ、大尉がよくあの時機に熊本に招聘されたものと驚くばかりである。

本年3月27日は、ジェーンズ大尉の没後百年にあたる。不明な点がまだ残されている彼の足跡を今後も丁寧に追ひ、できるだけ新しい事実や視点を投入しながら、ジェーンズが熊本或いは日本に与えた影響を探っていきたい。

[注]

1. Notehelfer, F. G., *American Samurai: Captain L. L. Janes and Japan*. Princeton University Press, 1985, pp. 11-25.
2. *Ibid.*, pp. 36-55.
3. Capt. L. L. Janes, *KUMAMOTO, An Episode in Japan's Break from Feudalism*, 京都同志社社史資料編集所 史料彙報第二集, pp. 1-18.
4. 花立三郎「肥後勤王党の人々」『熊本黎明期の人々』、熊本大学、1984年、p. 29。
5. 花立三郎「横井小楠の業績と思想」『近代熊本の思想と文化』熊本大学、1982年、pp. 1-10。
6. 熊本県・編『熊本縣教育史』熊本縣教育委員会、1975年、p. 301。
7. 徳富猪一郎『蘇峰自伝』中央公論社、1935年、p. 53。
8. Jansen, Marius Berthus, “*Monarchy and Modernization in Japan*” : *The Journal of Asian Studies*, 1977, p. 615.
9. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第二集, pp. 7-8.
10. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第三集, p. 4.
11. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第三集, p. 8.
12. 色川大吉『明治の文化』岩波書店、1970年、p. 31。
13. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第二集, p. 42.
14. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第四集, p. 37.
15. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第四集, p. 13.
16. 熊本県・編『熊本縣教育史』熊本縣教育委員会、1975年、pp. 204-535。
17. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第二集, p. 22.
18. 熊本県・編『熊本県史』熊本県、1961年、p. 678。
19. 熊本県・編『熊本縣教育史』熊本縣教育委員会、1975年、p. 536。
20. 徳富猪一郎・著『蘇峰自伝』中央公論社、1935年、pp. 53-54、64。
21. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第二集, p. 41.
22. Morita, Kumato. “*My Reminiscences of Capt. Janes.*”
23. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第四集, p. 19.
24. Fuwa, Tadajiro. “*My Reminiscences of Capt. Janes.*”

25. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第二集, p. 42.
26. Notehelfer, F. G., *American Samurai: Captain L. L. Janes and Japan*. Princeton University Press, 1985, p. 37.
27. 石井容子『熊本英学史および日本英学史における Capt. L. L. Janes の意義と貢献 - Encounter Divinely Programmed -』熊本県立大学、2006年、p. 10。
28. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第二集, p. 35.
29. *Ibid.*, pp. 26-34.
30. *Ibid.*, p. 39.
31. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第四集, p. 19.
32. *Ibid.*
33. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第四集, p. 21.
34. 同志社大学・編『キリスト教社会問題研究第7号』同志社大学、1963年、p. 199
35. Notehelfer, F. G., *American Samurai: Captain L. L. Janes and Japan*. Princeton University Press, 1985, p. 133.
36. Janes, *KUMAMOTO*, 史料彙報第四集, pp. 72-76.
37. *Ibid.*, p. 78.
38. *Ibid.*, pp. 78-79.
39. 熊本市・編『史蹟の熊本 第五集』熊本市、1956年、p. 34。
40. Notehelfer, F. G., *American Samurai: Captain L. L. Janes and Japan*. Princeton University Press, 1985, p.p. 152-154.
41. 犬童信義・編『改訂・近代熊本農業年表明治篇』共同体社、1976年。
42. Notehelfer, F. G., *American Samurai: Captain L. L. Janes and Japan*. Princeton University Press, 1985, p.p. 77-78.
43. Janes, *KUMOMOTO*, 史料彙報第三集, pp. 10-18.
44. *Ibid.*, pp. 21-22.
45. *Ibid.*, pp. 40-43.
46. *Ibid.*, p. 44.
47. 「白川新聞」第五號、明治7年甲戌10月18日。同号には耕耘社規則も掲載されている。
48. 犬童信義・編『改訂・近代熊本農業年表明治篇』共同体社、1976年。
49. Janes, *KUMOMOTO*, 史料彙報第三集, pp. 24-28.
50. 『熊本展望』第5号 1976年冬季号、田水社、1976年、pp. 66-76。
九州大学農学部農業経済学教室『エルエル・ゼーンズ 生産初歩 全』熊本書林、宇土書林、1972年。

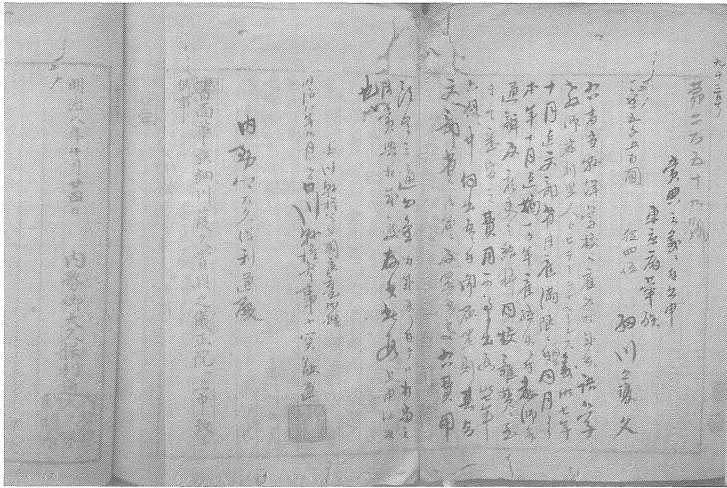
添付資料

(Fig-2) 雇入外国人に関する明細

官省一途 明治五年 三	辛未十月分	在入外國人	米國	カヒテーラ セーレンス	英學	給料 一ヶ月 四百元	雇入條約書日附明治四年 辛未七月廿七日	在入地 東京	期 明治四年 辛未八月廿八日ヨリ 同七年 甲戌八月廿八日マデ	蘭國	セネファン マンスブルト
-------------	-------	-------	----	-------------	----	------------	---------------------	--------	-----------------------------------	----	--------------

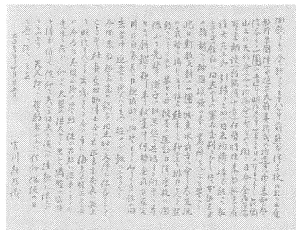
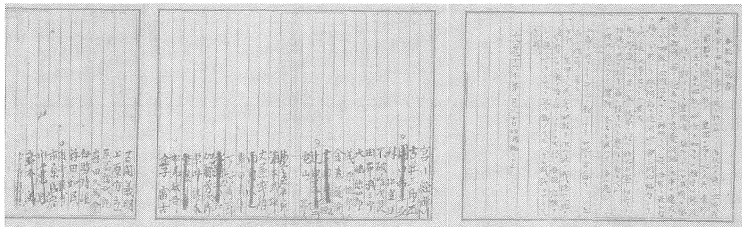
熊本 蔵

(Fig-4) 県政文書



熊本県立図書館所蔵

(Fig-6) 「奉教趣意書」



同志社社史史料センター所蔵

Fig. 2、Fig. 4、Fig. 6の資料につきましては、所蔵する機関に特別利用の申請をし、それぞれ許可を得ています。